

# 政府機関におけるセキュリティ・IT人材育成総合強化方針【概要】

- 【課題】
- セキュリティに係る人材の圧倒的不足
  - システム管理や業務改革の知識・経験を有する人材の不足
  - 一般職員の情報リテラシーが不十分
  - 自組織におけるセキュリティ対策等の司令塔機能が弱体



政府一体となって、政府機関においてセキュリティ・IT人材を本格的に確保・育成する第一歩として、以下の取組を実施

## 【1. 各府省庁における司令塔機能の抜本的強化】

- 平成28年度から「サイバーセキュリティ・情報化審議官」の新設等により司令塔機能を抜本的に強化
  - 「セキュリティ・IT人材確保・育成計画(仮称)」を作成し、これらの審議官等で構成する会議で共有・フォローアップ
  - サイバーセキュリティ対策推進会議(CISO等連絡会議)、各府省庁情報化統括責任者(CIO)連絡会議、次官連絡会議においても共有
- (CISO:最高情報セキュリティ責任者 Chief Information Security Officerの略称、CIO:情報化統括責任者 Chief Information Officerの略称)

## 【2. 橋渡し人材(部内育成の専門人材)の確保・育成】

### (1) 体制の整備・人材の拡充

- ◆ 各府省庁の統括部局・一定のシステム所管部局の体制の整備及び人材の拡充

### (2) 有為な人材の確保

- ◆ 積極的な広報のほか、大学等での出張講義、インターンシップ等を検討 ◆ 各府省庁において有為な人材を確保

### (3) 一定の専門性を有する人材の育成

- ◆ 「セキュリティ・IT人材育成支援プログラム(仮称)」の作成(研修受講、内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)等への出向、大学院・民間企業への派遣等を通じた人材育成) ◆ 将来的に一部人材の総務省行政管理局等での採用・一括管理の枠組みの検討

### (4) 研修体系の抜本的整理

- ◆ 新たに役職段階別に研修体系を抜本的整理(橋渡し人材の受講者数を今後4年で1千人超規模を目指す)、修了者へのスキル認定の枠組み構築等
- ◆ 管理職向けの実践的演習等 ◆ CSIRT要員研修等の活用 (CSIRT:情報セキュリティ緊急対応体制 Computer Security Incident Response Teamの略称)

### (5) 適切な処遇の確保

- ◆ 業務の専門性・特殊性等を踏まえ手当等を新たに支給することによる一定の給与上の評価 ◆ 高位ポストまで見据えた人事ルート例(イメージ)の設定

## 【3. 外部人材(即戦力の高度専門人材)の確保】

- NISC等において高度セキュリティ人材を採用し監査等で各府省庁に派遣
- 情報通信技術(IT)総合戦略室における政府CIO補佐官の積極的活用
- 産学官連携によるセキュリティ・IT人材の育成

## 【4. 一般職員の情報リテラシー向上】

- 各府省庁の新人研修等でのセキュリティ・IT研修実施
- 新任管理職研修でのセキュリティ・ITの基礎的知識の習得機会提供
- 人事評価マニュアルを改訂し、セキュリティ等に係る行動の評価の着眼点を明示等